



平成二十七年七月 第四号

© 2014 雅友会

北隅組研修大会に寄せて

北隅組正福寺 西藤普照

平成27年2月7日、始良市の加音ホールで北隅組の研修大会が開催され、約600人の参加者の前で「和雅音のしらべ」と題して雅楽の演奏と舞楽の披露を行いました。私は雅友会会員として参加すると同時に、研修大会の実行委員長としての企画もさせていただきました。そもそも北隅組の研修大会で雅楽・舞楽の観覧を、と言う話が出たきっかけは、平成25年の如月忌での演奏でした。如月忌での演奏を聞いた仏婦の方々から組において別の機会に雅楽の演奏が聞けたら、という話が持ち上がり、今回の研修大会につながっていききました。

演奏する側として、こうして多くの御門徒の方の前で演奏する機会に遭えたこと、またその縁がつながっていくことがとてもありがたく感じると同時に、企画する側として、普段足しげくお寺にお参りする方もなかなか生の音を聞く機会がないなかで、生音の迫力と仏教音楽として法要に欠かせないものであることを少しでも伝えることができたので

はないかと、このご縁に遇えたことを本当に有難く思うところです。
普段は背を向けている御門徒の方に向けて演奏する緊張感のなか、演奏してあげているのではなく、演奏させてもらっているということの有難さを感じた大会だったように思います。



東日本大震災復興支援

雅楽演奏ボランティア活動

鹿児島教区教務所職員 一條和真

本年度、鹿児島教区雅友会は2015年3月10日～11日の2日間、東日本大震災で大きな被害を受けた東北地方で、雅楽演奏を中心としたボランティア活動に従事いたしました。私は3月10日に行われた宮城県名取市の美田園地区のサロンでの雅楽の演奏会・交流会に、雅友会会員5名で参加させていただきました。

今からおおよそ3年前の2012年7月、私は教区仏教婦人会連盟会員の3名とボランティア活動に従事するため、東北地方を訪れました。そのときには、地震・津波の被災から1年余りが経過していましたが、思うように復興は進んでいませんでした。1回目の訪問の際、南三陸町～松島海岸～仙台市内を車で案内してもらったのですが、道のいたるところに津波の流入物が高さ5～6メートルほど高く積み重ねられており、今までテレビを通してしか見る事のなかった、被災地の「震災被害の凄まじさ」を目の当たりにした私は言葉を失いました。

それまで、鹿児島に住んでいる私は、「東日本大震災」のことを心の底で「遠く離れた日本での出来事」と感じていました。しかし、実際に被災地へ訪れて感じた津波被害の凄まじさ、仮設住宅などにお住まいの被災者の方々が置かれている境遇を目の当たりにして、そんな自分を心底恥ずかしくなったのを今でも思い出します。

今回の訪問では、3月10日の午前中に仙台別院へ参拝し、3月11日に東北教区・宮城組・専能寺にて勤修される「東日本大震災追悼法要」の使用する打物等の搬入のお手伝いをさせて頂いた。お昼すぎにサロンに到着しました。サロンでは美田園地区にお住まいの方々の前で雅楽「平調・越天楽」「越天



楽幻想曲」「遠き山に日は落ちて」を演奏、途中で楽器の紹介を行った後、最後に「太食調・抜頭」を演奏させていただきました。

そのあとの交流会では実際に楽器に触れてもらいながら雅楽を体験してもらい、参加の皆様とお茶を片手に色々な話をする事ができました。お集まりの方も「生で聴くのは初めて」「迫力があって驚いた」など、雅楽の演奏を喜んでもらえた様子で、私も嬉しい気持ちになりました。

今回、被災地の現地見学をさせていただく中で、3年前に訪れた道を再び車で移動をする機会がありました。3年前に通った道の路肩の流入物はきれいに取除かれ、すこしずつ、一歩ずつですが、被災地が復興に向けて進んでいることを感じる事ができました。

その後、雅友会会員は3月11日に東北教区・宮城組・専能寺にて勤修された「東日本大震災追悼法要」に出勤。奏楽員として亡くなられた被災者の方を偲びつつ、東北にお念仏の声を響かせたことでした。

次年度以降も雅友会として東日本大震災への支援を引き続き行い、演奏会に限らず何らかの形で関わっていただければと感じています。私も2回東北へ行くご縁をいただいたことで、復興に対する気持ちが変わったように感じました。今後



《法話のコーナー》
たとえわたしがわすれても

東隅組願成寺 藤 清道

私がお預かりしております出張所の隣には、その昔、『フジ子美容室』という美容室がありました。その店主、フジ

子おばちゃんには、私も幼少のころから可愛がってもらい、お寺の法座にお参りの時は、よくその膝の上に座らせてもらいました。しかし、二十数年前に県道の区画整理のため、出張所、並びに『フジ子美容室』も移転を余儀なくされ、農協（現JA）の横に建っていた本堂、そして『フジ子美容室』は、跡形もなく取り壊されてしまいました。本堂の裏にはかなりの老木でしたが柿の木が植えられており、秋になると、それはたくさん柿の実をならしました。今はその柿の木もありません。いまや私の少年時代の記憶に残るだけです。いや、私の父にも、その柿の木の記憶が残っているかもしれません。

私の父（藤法導）は小学校3年生の時に、生まれ故郷の福岡県甘木を離れ、単身養子としてここ鹿児島へやってきました。実の叔母と、血のつながらない養父夫妻のもとへ、養子として迎えられたのであります。叔母がいたにせよ、実の母親と離された生活は、どんなに寂しく、つらかったものでしょう。また、養父は大変厳しい人で、お勤めの稽古や、日常生活にいたるまで、ままたらない時には、鉄のキセルで叩かれていたそうです。立派な僧侶に育てるため、敢えて厳

しくしたのかも知れませんが、どんなに厳しくされても、甘える母親もいませんし、そのフラストレーションを発散する相手もいません。その矛先は、本堂の裏にあった物言わぬ柿の木に向かったそうです。当時、剣道を修していた父親は、ただ涙を流しながら、誰にも判ってもらえない呻き声をあげながら、その柿の木に何回も何回も、手にした木の棒で打ち込んでいったそうです。

その姿を、影からいつも目にして涙を流してくれていた人がいました。それが『フジ子美容室』のフジ子おばちゃんです。「ああ、また法ちゃんが泣いている・・・」と。

月日は流れ、天真爛漫だった私もアラフォーとなり、毎日をせわしなく過ごしていたある日、母親が、「清道、フジ子おばちゃんが認知症になって、いま、施設に入っているの。今まで京都にいて会えなかっただろうから、お見舞いに行きたいで！」施設に到着すると、受付で面会の申請をし、ほどなくフジ子おばちゃんがあらわれました。血色はよく、真っ白になった髪の毛が気品さえ漂わせていました。開口一番、「おばちゃん！」と声をかけると、うんうん、とうなずいてくださり、二人ソファに腰かけ、話

をはじめました。とりとめのない話をしているうちに、フジ子おばちゃんか、「お勤めの稽古、がんばっちゃいな？」と聞いてきました。違和感を覚えながらも、「頑張っているよ」と答えると、「きばいやんせーきばいやんせー、なあー法ちゃんー」と涙を流しながら、両手で私の頬を何度も何度も撫でるのです。いっときですが、私は清道で、清ちゃん。父親は法導で、法ちゃん。認知症のため、二人の区別がつかず、また年月の区別もつかず、何十年もタイムスリップしていったのです。認知症になりながらも、私のことをわすれても、父親のことをわすれてくたさらないおばちゃんがいまいました。

たとえ、あなたの身がどんなことになるうとも、たとえ、あなたのいのちがどう転ぼうとも、このわたし一人は、決して見捨てることがない、と誓われた方が阿弥陀さまでした。たとえこの私がわすれても、決してわすれてくたさらない阿弥陀さまがいてくださる、「われにまかせよ、かならずすくう」とのお喚び声に、お慈悲に抱かれていくわたくしであったと、もうすでにお浄土に往生されたフジ子おばちゃんとの思い出に、気づかせていただいたことでありました。

朋 友 紀 行

十方微塵世界の
念仏の衆生をみそなわし
撰取してすてざれば
阿弥陀となづけたてまつる
『浄土和讃』

合掌

このコーナーでは、雅友会員の所属寺のご紹介いたします。記念すべき第一回目は、雅友会会長です。

現会長は東隅組正心寺（曾於市大隅町月野）の住職であります島見教信氏です。

☆正心寺はどのようなお寺ですか？



世代ごとに向けて、様々な教化活動を展開しています。
特に今年には戦後70年ということで【戦後70年プロジェクト】を立ち上げ、子どもから大人まで世代を超えて「非戦・平和」についてあらためて考えることのできるイベントや勉強会を開催しています。



「非戦・平和を願うコンサートの様子」

☆雅友会へのお問い合わせ

鹿児島教区教務所内 雅友会事務局

099-22210051 (担当 井川)

雅友会ホームページ（鹿児島別院ホームページ内）

<http://www.hongwanji-kagoshima.or.jp/gayukai>

正心寺HP <http://shoushin.9syu.net/>